

酒田市名誉市民 新田嘉一氏がご逝去されました

■総務課総務係 ☎26-5700

本市の名誉市民である新田嘉一氏が令和8年7月12日(日)にご逝去されました。謹んで哀悼の意を表するとともに心からご冥福をお祈りいたします。



記帳所を設置します

期日／8月10日(月)まで(土曜・日曜日を除く)

時間／午前8時30分～午後5時15分

場所／市役所1階ロビー、各総合支所正面玄関付近

酒田市名誉市民であり(株)平田牧場の創業者である新田嘉一様のご逝去の報に接し、深い悲しみと喪失感を禁じえません。

昭和8年に旧平田町で生まれた新田様は「平牧三元豚」に代表される良質な豚肉の生産・販売を通じて同社を全国に名だたる企業に育てるとともに、酒田市新田産業奨励賞の創設により本市の産業振興に多大な貢献をされました。

酒田商工会議所会頭などの要職も歴任し、庄内空港、酒田港、高速道路網などのインフラ整備や、中国や台湾など海外との経済交流拡大にも

卓越した行動力で尽力されました。本市美術館「新田コレクション」を通じて文化振興や、理事長として率いた東北公益文科大学における人材育成なども特筆されます。

新田様が本市の未来を見据え、情熱を注がれた数々の歩みは、本市にとってかけがえのない財産です。その志を受け継ぎ、本市のさらなる発展に努めてまいります。

生前のご功績に深甚なる敬意と感謝を申し上げますとともに、ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

酒田市長 矢口 明子

伝えなかった
想いをここに



大切な人へ

第65回

助産師・思春期保健相談士 後藤 敬子 先生

ごつとさん、将来の夢、やっと見つけたよ！

「将来は、誰かの役に立つ仕事をしたい...だけど、何をしたいか見当もつかない」友人とお店の中にある「みんなの本棚」をじっくりと見ている高校生と出会った。子育て相談に応じる私に「人の役に立つ仕事をしていきますよね?」と話しかけてきた。さらに質問を続ける彼らに「将来についてはゆっくり考えて決めればいいよ」と答えた。

出会ってから約1年後「また会いに来ました。調理学校に進みます!」と具体的な学校名となぜ調理師を志したのかを話してくれた。

小学生から高校生まで、学校から帰ると家に一人のことが多く、少し寂しかった。そんな彼の楽しみは、小腹を満たすために冷蔵庫を開けること。母手作りのおやつや料理、時には朝食の残りの日もあったが、料理を見ただけでワクワクした気持ちや食べた時の美味しさは絶対に

忘れないと言う。将来は「誰かが一人寂しく冷蔵庫を開けた時、中を見て笑顔になる料理を提供する人になりたい。自分の作った料理が誰かの生活を支えている、そんな仕事したい」と目を輝かせた。母に話すと、息子が調理の仕事に興味を持つとは思わず、ましてや自分がきつかけだったことに驚いていたが反対はせず、進路を見つけたことを喜んだそう。

もちろん調理の仕事は簡単な仕事ではないと思うが「母も忙しい中、家族のために笑顔で料理を作っています。ごつとさんも、好きな仕事だから笑顔で母さんや赤ちゃんに接しているんでしょ?」と続けた。「誰かのためを思って笑顔で調理できる人になりたい。まずは試験に合格しないと、ですよね!」

具体的になった将来の夢を話す彼は、1年前より大人っぽく見えた。